

本号の主要記事

○第2回全国理事会

○石川大会決算報告

○事務職員研修会

○教職員等中央研修（第2回事務職員研修）

2018

協会ニュース 200号



角島大橋（山口県下関市）

提供：一般社団法人山口県観光連盟

平成30年1月1日発行

全国公立高等学校事務職員協会

<http://zenjikyoo.jimdo.com/>

事務局：茨城県立並木中等教育学校

電話：029-851-1346

住所：茨城県つくば市並木 4-5-1

新年のごあいさつ

全国公立高等学校事務職員協会 会長 秋田 剛



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も本会活動に御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学校における働き方改革について、中央教育審議会の特別部会で審議されています。学校が担うべき業務、教職員が担うべき業務、学校の組織運営体制、そして教員の勤務の在り方について議論が重ねられ、必ずしも教員が担うべき業務でないもののうち、事務職員、専門人材、学校の活動を支援する人材等がどのような業務を分担、連携するか、また、事務職員等が学校の組織体制の中で具体的にどのような役割を担うべきかということが検討されています。

その中で、調査・統計への回答は、教育課程・生徒指導以外のものについては、事務職員等が中心となって対応する。学校徴収金の徴収・管理は、基本的には学校以外が担うべき業務とし、学校が担う場合でも、学校において教員以外の者が担うべき業務とし、学校徴収金等未納の督促などは、事務職員らを活用し、教員の業務としないなど、教員の負担軽減部分が、学校事務職員の担う業務とされています。

しかしながら、県立学校事務職員の現状は、1校に複数の事務職員がおりますが、県財政の影響や生徒数の減少などにより減少しています。そのような状況の中で、学校事務職員の事務量が増えることは、チーム学校による事務職員の期待が高まるなか、その専門性を生かすことや学校経営に参画することなど厳しい状況になることが懸念されます。

本協会としては、今後も文部科学省に対し、県立学校事務職員の現状を訴えていくとともに、県立学校事務職員についても議論されることを期待します。

さて、第71回全国研究大会は、「西の京」山口県山口市で平成30年7月26日から27日にかけて開催いたします。豊かな自然や歴史が共存する文化都市で、歴史遺産や自然が数多く残り、幕末には明治維新の中心的な役割を果たしました。平成30年は明治維新150年です。

是非ともたくさんの参加をお願いいたします。

全国協会は、平成29年に創立70周年を迎えることができました。会員の皆様に改めて感謝申し上げます。今後も、会の目的でもある学校教育効果の進展に寄与できるようさらに努力していきます。

平成29年度

第2回全国理事会報告

期日：平成29年11月17日(金)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

11月17日(金)国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において今年度の第2回全国理事会が行われ、全国から都道府県市協会長が参集した。

理事会出席者は、協会役員を含め総勢 59 名。以下のとおり全国理事会の概要を報告する。



<報告事項>

○協会の活動状況及び情勢について

理事会資料の「全国理事会議案書」に基づき平成 29～30 年の主な活動内容の報告と今後の活動予定についての説明を行った。

また 30 年度より福井県協会、滋賀県協会が休会となることについて報告を行ったが、各都道府県市協会活動の厳しい状況を改善するためにも、全国協会としては、文部科学省に対して、引き続き県立学校等の事務職員の現状を報告しながら、必要なことを要望していくことなどの説明を行った。

○第1回全国理事会及び第70回全国研究大会並びに総会について

平成 29 年7月 26 日～28 日の三日間に渡る石川大会の実績報告を行った。

○第70回全国研究大会の決算報告等について

松本実行委員長より、全国研究大会(石川大会)の決算報告と参加者の集計結果の説明を行った。

また、大会に多くの方々(841 名)が参加されたことに対して感謝の意が述べられた。

(収支決算報告は4ページに掲載)

○全国調査について

「平成 29 年度全国協会要覧」に掲載の全国調査集計結果についての説明を行った。

○来年度以降の協会要覧発行方法について

来年度以降は現在の1校1冊の配付を見直し、印刷物としては各協会5部程度として、会員向けには全国協会ホームページの会員ページにPDFファイルで掲載するなどの説明を行った。

<審議事項>

○第70回全国研究大会優秀研究発表者の表彰について

審査の経緯が報告され、最優秀は該当なし、最優秀に準ずるものとして兵庫県、富山県、沖縄県及び徳島県の研究発表4本を推挙し表彰する旨の提案があり、承認された。

○第1回全国理事会等の日程について

平成 30 年7月 25 日(水)山口県山口市「セントコア山口」での開催を提案し、承認された。

○第71回山口大会並びに総会の日程について

松田副会長(山口県実行委員長)より、以下のとおり提案があり、承認された。

・期 日：平成 30 年7月 26 日(木)～27 日(金)

・日 程：26 日 12:30～16:10(総会終了 17:30)

27 日 9:20～16:20

・会 場：山口市市民会館(山口市)

・全体会：記念講演

演題「未定」

講師 大阪大学大学院人間科学研究科

教授 小野田 正利 氏

<連絡事項>

○協会要覧の配付について

11 月中に各協会長宛て各校1冊送付した。

○「学校事務」誌への原稿依頼について

学事出版社刊の「学校事務」誌の特集、連載等の執筆者を募っている。研究部から、あるいは各協会長を通じて依頼があった場合には、是非引き受けていただきたい。

○70 周年記念誌の配付について

60 周年記念誌「60 年のあゆみ」以降の 10 年の足跡の記録として 70 周年記念誌を作成し、各協会3部に保存用として1部を加え配付した。

各会員向けには全国協会ホームページの会員ページにPDF ファイルを掲載した。今後、資料編を追加掲載する予定。

(総務部長 櫻井)

協会ニュース 200号記念企画 退任理事これからを展望する！

11 月 30 日で退任した 2 名の常任理事にも、「70 年のあゆみ」で常任理事経験者から寄稿いただいたお題で書いてもらいました。

「人口減少、超高齢化、到来！」 次代を担う子供

一人ひとりの健やかな成長を願って

元広報部 橋村 郁美

平成 27 年国勢調査では、全国の人口は1億 2709 万人と、

前回から約 96 万人減少し、調査開始以降初めての減少となりました。2025 年には、団塊世代が 75 歳以上となる超高齢化を迎えます。「若い力」を必要とするが、若い人たちの絶対数が少ないという困難な時代になります。

大いなる可能性を秘める子供たち一人ひとりが健やかに成長できることを願って、学校事務職員として現役の今、日々の学校の課題に真摯に取り組みをしようと改めて気を引き締めています。

第一線を退いても社会の一員として、全国協会の皆様との出会いから学んだように、いろいろな人と交流して、子供たちの能力や可能性を引き出し、子供たちが多様な個性を伸ばしてほしいと願う気持ちを持ち続けて、行動します。

生涯現役！皆様もどうぞお元気に活躍ください。

「事務職員同士の横の繋がりが大切！」

元総務部 谷野 仁子

今年は早々に入試の成績と答案開示、5 月には給付型奨学金(学生支援機構でなく、東京都独自で生徒の選択的教育活動に参加する経費の支援制度)の説明で、7 月実施と現在も学事担当と試行錯誤しながら給付型奨学金と格闘しています。

来年度は学事関係で保護者からマイナンバー提出になりますが、特定個人情報で紛失等は許されない中で、各学校での提出方法については、これから検討しなければなりません。

東京都の経営企画室ではベテラン事務職員がいなくなり、新採や知事部局からの異動者となる中で、新しい制度への対応に迫られています。一担当として不安や悩んでいる事務職員が多いと思います。こんな時に、実務をしている担当者同士の繋がりが大切で、事務職員会があったらと思います。東京都は事務職員会としての活動が少なくなくなって何年も経ち今年度から活動休止していますが、その必要性を実感しています。

第70回全国公立高等学校事務職員研究大会収支決算書

収入決算額 9,379,060 円
 支出決算額 9,379,060 円
 差引残高 0 円

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
大 会 参 加 費	3,700,000	3,367,000	-333,000	参加費 4,000円×840名、5,000円×1名 資料代 2,000円×1名
負 担 金	5,796,000	5,102,016	-693,984	協会本部 4,000,000円 北信越支部 1,102,016円
補 助 金	0	760,000	760,000	石川県・金沢市720,000円 互助会40,000円
助 成 金	100,000	150,000	50,000	日本教育公務員弘済会石川支部
雑 収 入	1,000	44	-956	預金利息 44円
合 計	9,597,000	9,379,060	-217,940	

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
大 会 準 備 費	1,579,216	1,816,584	-237,368	
旅 費	1,400,260	1,744,240	-343,980	先催県視察、合同打合せ等
会 議 費	10,000	46,362	-36,362	会場使用料
消 耗 品 費	64,316	21,554	42,762	実行委員長印、USBメモリー等
通 信 運 搬 費	104,640	4,428	100,212	各種資料等郵送料
大 会 運 営 費	7,917,784	7,562,476	355,308	
報 償 費	1,230,000	820,340	409,660	講師謝金等
旅 費	300,000	257,944	42,056	文科省等講師・パネラー等旅費
会 議 費	679,415	691,415	-12,000	全国理事会等会場使用料
消 耗 品 費	341,620	638,015	-296,395	大会運営・受付・記録用消耗品
印 刷 製 本 費	854,000	978,933	-124,933	大会要項・資料等印刷
食 料 費	401,200	332,000	69,200	講師等昼食・お茶代
通 信 運 搬 費	88,600	20,860	67,740	各種連絡用郵送料
委 託 料	130,000	130,000	0	宿泊等大会運営に関する業務委託料
使用料及び賃借料	3,892,949	3,692,969	199,980	大会会場使用料・看板作成・機器レンタル料等
予 備 費	100,000	0	100,000	
合 計	9,597,000	9,379,060	217,940	

平成29年度事務職員研修会

・講演

「学校事務における次世代リーダーの養成」

・班別事例演習

講師

(株)マネジメントサポート

研究開発講師 吉野 有紀 氏

平成29年11月17日(金)、「学校事務における次世代リーダーの養成」～人と組織を動かす論理的コミュニケーションスキル～と題して、事務職員研修会が国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において行われた。

昨年度に引き続き、講師に株式会社マネジメントサポートから吉野有紀氏を招き、午前は講演、午後は全国から推薦された研修生66名を班別に分け、事例演習・ロールプレイング、ディスカッションなど班別討議形式での研修を行った。



吉野氏は、「接遇マナー」「クレーム対応」「指導育成者研修」などについて、企業・自治体での研修指導に活躍されている。今回は吉野氏に、職場のリーダーとしての立場と役割をより明確にし、後輩の良き見本となる役割行動(率先垂範)が担えるように、リーダーシップ、論理的思考力、コミュニケーション力の習得についてご講義いただいた。

【目的・趣旨】

学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な専門的知識・技能等の育成を目的として開催している。研修の趣旨は、

中堅事務職員を対象に、変化する時代の中、教育現場における職場環境の変化に対応したこれからのリーダーに求められるものとは何か、問題解決のための論理的コミュニケーションスキルを習得し、人と組織を動かす次世代リーダーの育成を目指すとしている。

【テーマの背景】

平成27年度の「育てる作法」、平成28年度の「イクボス育成のススメ」は関心度も高く、実施後のアンケート結果において高評価を得たことや継続した研修内容の希望が多かったことから、今年度は第3弾として、次世代リーダーにあたる中堅層の課題解決に向けたテーマを設定した。

【対話式講義の主題】

- ・これからの時代に求められるリーダーとは
- ・論理的思考と仮説思考力
- ・ビジネスコミュニケーションへの展開

【事例演習、ロールプレイング】

<問題解決における思考のプロセス>

- ・問題とは何か(問題意識とはどこからくるか)
- ・問題解決のプロセス・手順

- ①ロジカルシンキング
- ②本質的な問題を発見する
- ③仮説思考を高めるフレームワーク
- ④論理展開
- ⑤ロジカルコミュニケーション(傾聴、質問、主張)

<OJT指導の基本>

- ・動機づけ理論/ほめ方、叱り方、評価の仕方
- ・アンガーマネジメントへの理解

<今後の自己課題の設定>

- ・職場で良きリーダーシップを発揮するための役割行動のプラン設計

平成29年度 事務職員研修会 参加者アンケート集計結果

「学校事務における次世代リーダーの養成」
～人と組織を動かす論理的コミュニケーションスキル～

1 回答率

100%（参加者66名＋1名（全国理事会出席者））

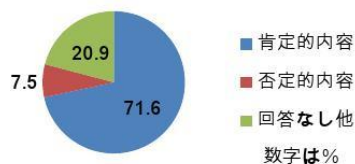
2 回答内容

【問1】今回の研修の題材・内容についての感想



	件数	内容
肯定的内容	63	良かった、参考になった、職場で生かしたい 等
否定的内容	2	全国から集まるからこそできる内容を、物足りない
他	2	1日半位の日程がほしい、メモに追われた

【問2】講演についての感想



	件数	内容
肯定的内容	48	分かりやすい、参考になった、理解が深まった 等
否定的内容	5	理論的色彩が強い、資料の説明で終わっている、抽象的、全国から集まるからこそできる内容を
他	14	時間が短い(8)、横文字多い、回答なし(6)

【問3】事例演習、ロールプレイング、ディスカッションの感想



	件数	内容
肯定的内容	63	すぐ実践したい、再認識することができた 等
否定的内容	1	全国から集まるからこそできる内容を
他	3	時間が短い、回答なし(1)

「懇親会への参加が少ないのが残念」(1)

【問4】次回以降研修で取り上げて欲しいテーマ

（複数回答があったテーマ）

- ・今回と同様でよい（リーダー関連） 9件
- ・アンガーマネジメント 3件
- ・働き方改革 3件

（その他）

- ・人事評価、成績評価 ・工事入札 ・コミュニティスクール
- ・ストレス問題 ・組織マネジメント ・コミュニケーション力
- ・同じメンバーと続編研修 ・ファシリテーション

【問5】その他全国協会への要望等

- ・今後もこのような研修会を続けてほしい、増やしてほしい。 [多数]
- ・文科省講話は必要か？ [2件]
- ・教育制度関連（文科省）について、今後も情報提供を。
- ・研修会の参加者に都道府県によって差がある。多くの参加に向けて呼びかけて。
- ・被災県において、事務職員がどのように対応したかをHPで取り上げてほしい。
- ・研修はせめて2日間は欲しい。 [2件]

平成29年度 教職員等中央研修 (第2回 事務職員研修)

茨城県つくば市にある「独立行政法人教職員支援機構つくば本部」において、112名の参加者による平成29年度教職員等中央研修(第2回事務職員研修)が平成29年10月16日(月)～10月20日(金)の日程で開催された。

この研修は、平成27年12月の中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」を背景に、昨年度からそれまでの「学校組織マネジメント指導者養成研修」から移行した研修である。

◆ 目的

教職員等中央研修は、学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、副校長・教頭、中堅教員及び事務職員等を育成すること。

◆ 主催

独立行政法人教職員支援機構

◆ 共催

文部科学省

◆ 受講者

(1)受講資格

高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者

(2)標準定員

6ユニット(120人)

◆ 全国協会の協力

協会からは、10月19日の「学校事務職員の実践のフロンティア」における実践報告発表者の候補者選出及び翌20日の「ケース・スタディ 学校運営事務の統括者としての学校運営

への参画」として5名が参加した。なお、研修全般について、研修参加者による誌上報告が「学校事務 平成30年3月号」で行われる予定なので、是非そちらもご覧いただきたい。

10月19日(木)

<講義・演習>

<実践報告・演習>

「学校事務職員の実践のフロンティア」

国立教育政策研究所初等中等教育研究部

総括研究官 藤原 文雄 氏

<実践報告>

①事務室でも何かしたい

～芸総という車を走らせるため～

埼玉県立芸術総合高等学校

事務長 平田 淳一

②鉾田新校開校に向けた取り組みについて

学校統合に伴う準備作業

茨城県立鉾田第二高等学校

主査兼事務長 榎 元

10月20日(金)

<ケース・スタディ>

「学校運営事務の統括者としての学校運営への参画」～災害時における事務室の役割～

国立教育政策研究所初等中等教育研究部

総括研究官 藤原 文雄 氏

ケース・スタディとは、特定の学習目標を達成するために、作られたケース(事例)を用いて受講者同士の討議を繰り返すことで実践力を付けて行く手法であり、職場のさまざまな場面の中であるいは、職務遂行・活動の中で現実に関与した具体的なケースを素材として当事者(本人)の立場として個人やグループで考察、論議し、解決していく過程を通して分析力、判断力、洞察力、意思決定能力などを学んでいく研修方式です。

今回の研修では、主体的、対話的であることに加えて深い学びにより、県立学校の事務長らしいものの見方、考え方を身に付け実践力を高めるという内容になっていました。宿泊を伴う長期間にわたる研修は、最近少なくなりましたが、連日、濃密な研修日程を、全国の同志とともに体験したことは、貴重で有益な機会になったと思います。このような研修は、受講内容を整理し、学校現場で生かしていくことが重要であると思われます。研修を受講された皆様におきましては、この研修の成果を、各地域で新しい学校づくりの中心的指導者となって還元され、一層ご活躍されることを祈念しています。



本部活動報告

- 常任理事会(東京・小山台会館)
11/2 全国理事会及び山口大会分科会運営ほか
12/8 全国理事会運営・事務職員研修ほか
- 常任理事会(全体会)(東京・国立オリンピック記念青少年センター)
11/17 第2回全国理事会の運営について
- 第2回全国理事会(東京・国立オリンピック記念青少年センター)
11/17 全国理事会(報告及び議事)
- 事務職員研修会(東京・国立オリンピック記念青少年センター)

11/17「学校事務における次世代リーダーの養成」

編集後記

会員の皆様のおかげで「協会ニュース」は、無事に200号を迎えることができました。ありがとうございます。

表紙に掲載の「角島大橋」は、平成12年に開通し、離島に架かる橋のうち、無料で渡れる一般道路としては、日本屈指の長さ(1,780m)だそうです。

コバルトブルーの海をまっすぐに超えていく橋は、その先(将来)に何かを期待させる姿にも思えます。

次号「協会ニュース」では山口大会について、特集します。

○ 全国協会 HP アドレス

検索名は、「全国公立」または、「全国公立高等学校事務職員協会」で可能です。

○ 「協会ニュース」についてのお問い合わせ

ご連絡は次の広報部編集担当まで

・群馬県立太田女子高等学校／菊池

TEL:0276-22-6651

Fax:0276-22-4701

Mail:kiku-ta@pref.gunma.lg.jp

・千葉県立松戸特別支援学校／川島

TEL:047-388-2128

Fax:047-388-4781

Mail:tkwshm10@pref.chiba.lg.jp